

III 国内産麦の生産と流通の動向

1 国内産麦の生産状況

(1) 小麦

① 作付面積

近年の国内産小麦の作付面積は21万ha程度で推移していましたが、令和3年産から増加傾向にあり、令和4年産の作付面積は、北海道で4,500ha増加 (+4%)、都府県で2,800ha増加 (+3%)、全国で7,300ha増加 (+3%) の22.7万haとなりました（図III-1）。

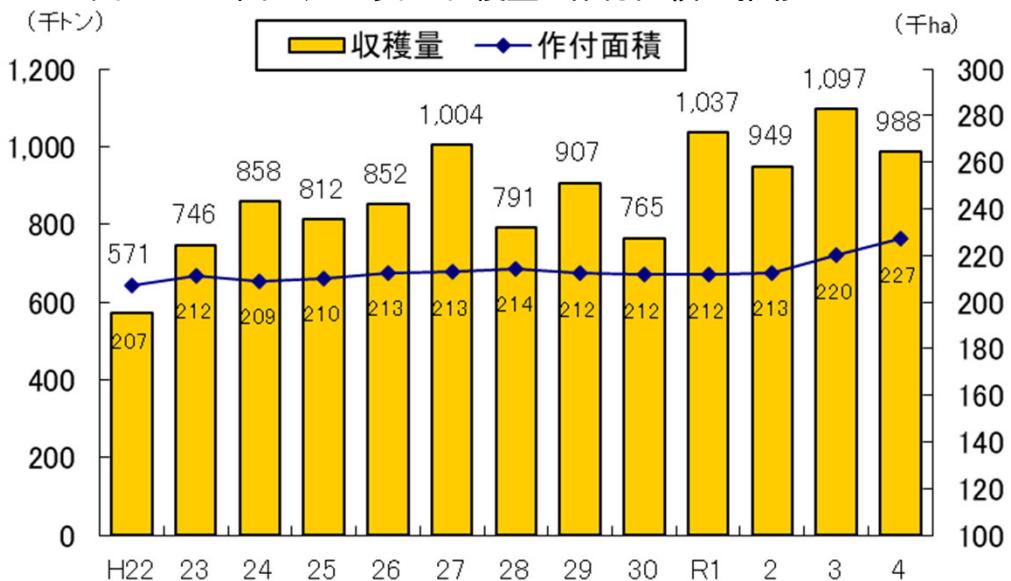
② 収穫量

令和4年産の国内産小麦の収穫量は、前年産に比べ、北海道で11.9万トン減少 (-16%)、都府県では0.9万トン増加 (+3%)、全国では10.9万トン減少 (-10%) の98.8万トンとなりました（図III-1）。大豊作となった前年産と比較すると収穫量は減少したもの、全国の10a当たりの収量は434kg/10aで、4年連続の豊作となりました。

③ 小麦の作付品種の状況

各産地の気候条件や用途等に適した品種が作付されており、令和3年産では日本麵用では「きたほなみ」、「シロガネコムギ」、「さとのそら」、パン・中華麵用では「ゆめちから」、「春よ恋」といった品種が上位を占めています（表III-1）。

図III-1 国内産小麦の収穫量と作付面積の推移



資料：農林水産省「作物統計」、令和4年産の数値は概算値。

表III-1 小麦の主な作付品種(令和3年産)

品種名	育成年	作付面積(千ha)	割合	主な作付地域
きたほなみ	平成19年	87.7	40%	北海道
ゆめちから	平成20年	20.2	9%	北海道
シロガネコムギ	昭和49年	16.5	8%	九州、近畿
さとのそら	平成21年	14.7	7%	関東、東海
春よ恋	平成11年	14.0	6%	北海道
上位5品種計		153.2	70%	
小麦作付面積	—	220.0		

資料：農林水産省「作物統計」、品種毎の面積は農林水産省農産局調べ

注：品種の育成年については、シロガネコムギは農林認定が行われた年、それ以外の品種は出願公表が行われた年としている。

(2) 大麦及びはだか麦

① 作付面積

近年、国内産大麦及びはだか麦の作付面積は約6万haと横ばいで推移しており、令和4年産は前年産と比較すると、二条大麦は100ha減少（▲0.3%）、六条大麦は1,200ha増加（+7%）、はだか麦で950ha減少（▲14%）となり、全体では150ha増加（+0.2%）の6.3万haとなりました（図III-2）。

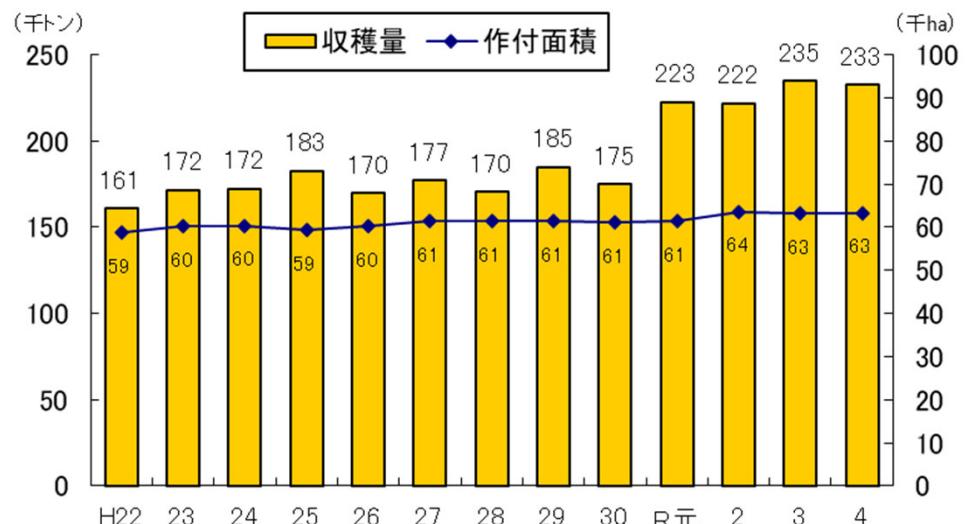
② 収穫量

令和4年産の大麦及びはだか麦の収穫量は、前年産に比べ、二条大麦は6,900トン減少（▲4%）、六条大麦は9,700トン増加（+18%）、はだか麦は5,000トン減少（▲23%）、大麦及びはだか麦の収穫量は合計で2,200トン減少（▲1%）の23.3万トンとなりました（図III-2）。豊作となった前年産と比較すると収穫量は減少したもの、全国の10a当たりの収量は368kg/10aで、4年連続の豊作となりました。

③ 大麦及びはだか麦の作付品種の状況

各産地の気候条件や用途等に適した品種が作付されており、令和3年産では二条大麦はビール用の「ニューサチホゴールデン」、六条大麦は主食用や麦茶用の「ファイバースノウ」、はだか麦は麦味噌等用の「ハルヒメボシ」といった品種が上位を占めています（表III-2）。

図III-2 国内産大麦及びはだか麦の収穫量と作付面積の推移



資料：農林水産省「作物統計」、令和4年産の数値は概算値。

表III-2 大麦及びはだか麦の主な作付品種（令和3年産）

麦種	品種名	育成年	作付面積 (千ha)	割合	主な作付地域
二条大麦	ニューサチホゴールデン	平成27年	8.0	24%	関東
	サチホゴールデン	平成18年	8.0	24%	九州、関東、中国
	はるか二条	平成25年	7.1	21%	九州
六条大麦	ファイバースノウ	平成13年	10.9	60%	北陸、東海、関東
	シュンライ	平成2年	3.1	17%	関東、東北、近畿
	カシマゴール	平成22年	1.2	7%	関東、東北、近畿
はだか麦	ハルヒメボシ	平成24年	1.8	28%	四国
	イチバンボシ	平成4年	1.5	24%	四国、九州
	トヨノカゼ	平成18年	1.2	20%	九州、中国
大麦・はだか麦作付面積		—	63.1		

資料：農林水産省「作物統計」、品種毎の面積は農林水産省農産局調べ

注：品種の育成年については、シュンライ、イチバンボシは農林認定が行われた年、それ以外の品種は出願公表が行われた年としている。

2 国内産麦の品質状況

(1) 農産物検査

- ① 令和4年産の小麦について、全国の1等比率は、84.1%（令和4年10月末時点）となっています（表III-3）。
- ② 令和4年産の普通小粒大麦は77.1%、普通大粒大麦は78.5%、普通裸麦は57.2%、ビール大麦は0.0%の1等比率となっています（表III-3）。

(2) 品質評価

たんぱく質や灰分の含有率等に基づく品質評価結果については、令和4年産の小麦では、Aランクが93.8%となっており、過去5年平均（Aランク比率92.1%）と比べ、1.7ポイント高くなっています。

また、令和4年産の大麦・はだか麦では、Aランクが80.3%となっており、過去5年平均（Aランク比率85.7%）と比べ、5.4ポイント低くなっています（表III-4）。

表III-3 国内産麦の1等比率の推移

（単位：%）

年産	平成29	30	令和元	2	3	4	5年平均 (平成29~3年産)
普通小麦	84.8	76.1	89.2	88.5	84.1	84.1	84.8
	85.0	74.0	91.7	89.9	89.7	83.9	86.6
	84.1	80.1	84.1	85.4	72.2	84.4	81.0
普通小粒大麦	69.6	69.6	72.6	74.5	63.1	77.1	69.9
普通大粒大麦	75.8	78.3	82.0	82.8	79.8	78.5	80.1
普通裸麦	84.0	71.3	81.2	82.5	47.2	57.2	71.6
ビール大麦	0.3	0.2	0.4	0.2	1.2	0.0	0.5

注：1) 各年産最終（30年産までは翌年4月末日現在、元年産からは翌年3月末日現在）の値である。ただし、令和4年産は、4年10月末時点の値である。

2) 強力小麦の検査数量を含む値である。

表III-4 令和4年産麦の品質評価結果

（単位：%）

	Aランク	Bランク	Cランク	Dランク	Aランク 過去5年平均 (平成30~令和4年産)
小麦	93.8	5.3	0.8	0.2	92.1
大麦・ はだか麦	80.3	6.0	13.0	0.8	85.7

資料：農林水産省調べ。

（参考）麦の品質区分

Aランク：評価項目の基準値を3つ以上達成し、かつ、許容値を全て達成している麦

Bランク：評価項目の基準値を2つ達成し、かつ、許容値を全て達成している麦

Cランク：評価項目の基準値を1つ達成し、かつ、許容値を全て達成している麦

評価項目の基準値を2つ以上達成しているものの、許容値を達成していない麦

Dランク：A～Cランクのいずれにも該当しない麦

【評価項目】

- ①小麦
 - ・日本麵用、パン・中華麵用（たんぱく、灰分、容積重、フォーリングナンバー）
 - ・醸造用（たんぱく3項目、容積重）
- ②二条大麦
 - ・麦茶用以外（容積重、細麦率、白度、正常粒率）
 - ・麦茶用（たんぱく3項目、細麦率）
- ③六条大麦・はだか麦
 - ・麦茶用以外（容積重、細麦率、白度、硝子率）
 - ・麦茶用（たんぱく3項目、細麦率）

3 国内産麦に対する支援

令和5年度は、経営所得安定対策等の対策のうち、主に畑作物の直接支払交付金と水田活用の直接支払交付金により、国内産麦に対する支援が行われます。

また、産地と実需が連携して行う麦・大豆の国産化を推進するため、国産小麦・大豆供給力強化総合対策及び産地生産基盤パワーアップ事業のうち国産シェア拡大対策（麦・大豆）による支援を行います。

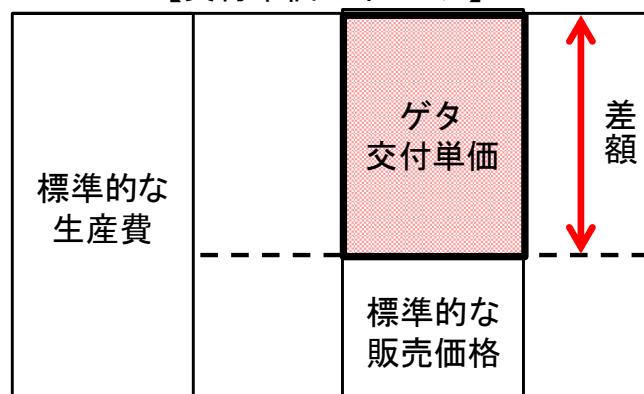
（1）畑作物の直接支払交付金

畑作物の直接支払交付金として、麦を生産する農業者に対し、標準的な生産費と標準的な販売価格の差額分を直接交付することとしています。

支払いは、当年産の麦の品質及び生産量に応じて交付する数量払を基本とし、当年産の麦の作付面積に応じて交付する面積払（営農継続支払）を数量払の先払いとして交付する仕組みにしています。

数量払は、播種前に締結した農協等との出荷契約や、実需者との販売契約に基づき出荷・販売された数量を交付対象とし、品質に応じた交付単価を設けることで、需要に応じた生産と品質に対する営農努力を適切に反映させる仕組みになっています（表III-5）。

【交付単価のイメージ】



表III-5 畑作物の直接支払交付金の麦の交付単価

【令和5年産から7年産に適用】

①数量払（品質に応じた単価）

（円／単位数量）

品質区分 (等級/ランク)	1等又は1等相当				2等又は2等相当			
	A	B	C	D	A	B	C	D
小麦 (パン・中華麺用品種) (60kg当たり)	課税事業者向け単価	7,860	7,360	7,210	7,150	6,700	6,200	6,050
	免税事業者向け単価	8,270	7,770	7,620	7,560	7,110	6,610	6,460
小麦 (パン・中華麺用品種以外) (60kg当たり)	課税事業者向け単価	5,560	5,060	4,910	4,850	4,400	3,900	3,750
	免税事業者向け単価	5,970	5,470	5,320	5,260	4,810	4,310	4,160
二条大麦 (50kg当たり)	課税事業者向け単価	5,870	5,450	5,330	5,280	5,010	4,590	4,460
	免税事業者向け単価	6,220	5,800	5,680	5,630	5,360	4,940	4,810
六条大麦 (50kg当たり)	課税事業者向け単価	5,210	4,790	4,660	4,610	4,180	3,760	3,640
	免税事業者向け単価	5,510	5,090	4,960	4,910	4,480	4,060	3,940
はだか麦 (60kg当たり)	課税事業者向け単価	9,220	8,720	8,570	8,480	7,650	7,150	7,000
	免税事業者向け単価	9,750	9,250	9,100	9,010	8,180	7,680	7,530

（参考）

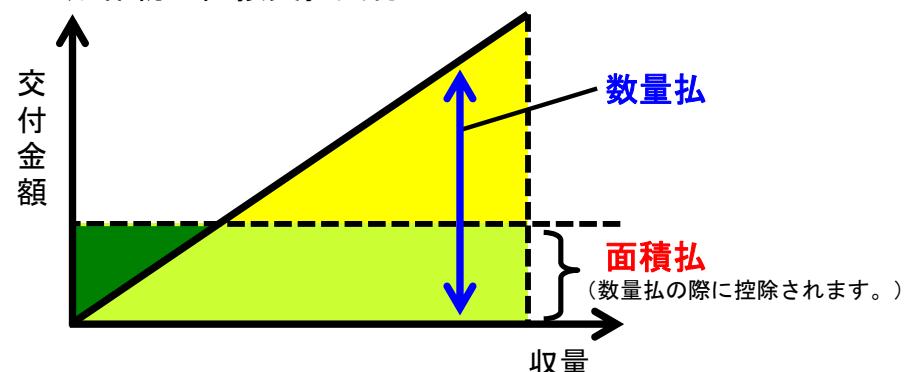
【課税事業者向け平均交付単価（括弧内は免税事業者向け平均交付単価）】

小麦:5,930（6,340）円／60kg、二条大麦:5,810（6,160）円／50kg、
六条大麦:4,850（5,150）円／50kg、はだか麦:8,630（9,160）円／60kg】

②面積払

当年産の作付面積に応じて交付 2万円/10a

〈畑作物の直接支払交付金のイメージ〉



(2) 水田活用の直接支払交付金

食料自給率・自給力の向上を図るため、水田で麦を生産する農業者に対しては、畑作物の直接支払交付金に加え、水田活用の直接支払交付金（35,000円／10a）を直接交付することとしています（表III-6）。

表III-6 水田活用の直接支払交付金の交付単価

戦略作物助成

作物	単価
麦、大豆、飼料作物	35,000円／10a
WCS（ホール・クロップ・サイレージ）用 稻	80,000円／10a
加工用米	20,000円／10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 55,000円～105,000円／10a

注：実需者等との出荷・販売契約等を締結すること、出荷・販売することが要件。

※このほか、「産地交付金」により、地域で作成する水田収益力強化ビジョンに基づき、二毛作や耕畜連携を含め、産地づくりに向けた取組を支援します。

(3) 小麦・大豆の国産化の推進

産地と実需が連携して行う麦・大豆の国産化を推進するため、ブロックローテーションや営農技術・機械の導入等による生産性向上や増産を支援するとともに、国産麦・大豆の安定供給に向けたストックセンターの整備や新たな流通モデルづくり、更なる利用拡大に向けた新商品開発等を支援します。（図III-3）。

図III-3 小麦・大豆の国産化の推進のイメージ



4 国内産食糧用麦の流通動向

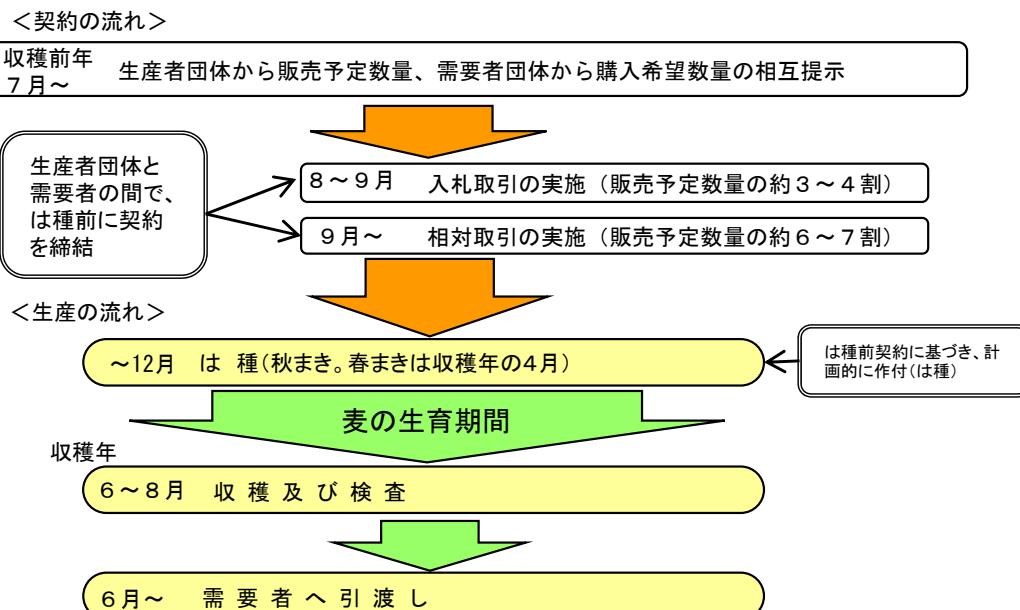
(1) 取引の概要

国内産食糧用麦は、加工原料としての商品特性から、需要に応じて計画的に生産できるよう、は種前契約に基づく取引が行われています。

まず、取引の指標となる透明性のある適正な価格を形成するため、は種前に販売予定数量の3～4割（具体的な比率は民間流通地方連絡協議会の協議を踏まえ決定）について入札が行われます。残りは相対取引が行われており、その価格については、入札で形成された指標価格（落札加重平均価格）を基本として、取引当事者間で決められています（図III-4）。

また、取引を円滑に進めるため、生産者、需要者等で構成される民間流通連絡協議会において、取引に必要な情報交換、取引に係る基本事項の見直し等が行われています（表III-7）。

図III-4 国内産食糧用麦の基本的な流通フロー



表III-7 国内産食糧用麦の入札の仕組み

項目	概要	見直しの変遷
実施主体	一般社団法人 全国米麦改良協会	
実施時期	は種前に2回実施（8～9月）	平成13年産から1回→2回へ見直し
上場数量	産地銘柄別に販売予定数量が小麦3千トン以上、大麦・はだか麦1千トン以上の銘柄について、その30～40%を上場（ほかに希望上場あり）	令和元年産から30%→30～40%へ見直し
基準価格	小麦は前年産の落札加重平均価格に当年産の入札実施時点での外国産麦の政府売渡価格の変動率を乗じた価格、大麦・はだか麦は前年産の落札加重平均価格	小麦の外国産麦との連動は平成24年産から実施
値幅制限	基準価格の±10%	小麦 平成12年産～16年産：±5% 平成17年産～21年産：±7% 平成22年産：±10% 平成23年産：±30% 平成24年産～ 大麦・はだか麦 平成12年産～18年産：±5% 平成19年産～21年産：±7% 平成22年産：±10% 平成23年産：±15% 平成24年産～ ±10%
取引価格の事後調整（小麦のみ）	外国産食糧用小麦の政府売渡価格の改定（4、10月）に合わせて、は種前の入札又は相対により契約された価格に外国産食糧用小麦の政府売渡価格の変動率を乗じて取引価格を改定	平成23年産から実施
申込限度数量	買い手別に 上場数量×買受実績シェア×1.45	小麦は平成17年産から、大麦及びはだか麦は平成19年産から 1.35→1.45へ見直し
相対取引	入札で形成された指標価格を基本に、生産者団体と需要者との間で協議・決定	平成19年産から過去の実績シェアに基づく取引ルールを廃止
再入札	第1回入札及び第2回入札において、落札残数量が発生した場合は、売り手の希望により再度入札に付すか相対による契約を行うかいずれかの方法をとることができる。	平成25年産から売り手の申し出により、再入札における入札の値幅を設定できること等を規定。

※平成26年産から、国内産麦の需要拡大を図るため、地域の食文化のブランド化等による高付加価値化の取組等に対し、安定的な原料供給が可能となる需要拡大推進枠を導入。

(2) 流通の動向

令和4年産の国内産食糧用小麦の供給量は、前年産から約11万3千トン減少し、約90万トンとなっています。

また、国内産食糧用大麦及びはだか麦の供給量は、前年産から約3千トン増加し、約15万2千トンとなっています（表III-8）。

生産者側から提示された令和5年産麦の販売予定数量は、国内産食糧用小麦で約95万5千トン、国内産食糧用大麦及びはだか麦で約13万5千トンとなっています。

一方、需要者側から提示された令和5年産麦の購入希望数量は、国内産食糧用小麦で約84万3千トン、国内産食糧用大麦及びはだか麦で約17万5千トンとなっています（表III-9）。

表III-8 国内産食糧用麦の供給量

(単位：千トン)

年産	平成25	26	27	28	29	30	令和元	2	3	4 (見込)
小 麦	767	808	946	734	845	703	967	871	1,012	899
大麦・はだか麦	105	103	103	92	106	103	141	143	149	152

注：集荷団体からの聞き取り数量である。

表III-9 国内産食糧用麦の販売予定数量及び購入希望数量の推移

(単位：千トン、%)

	年産	平成24	25	26	27	28	29	30	令和元	2	3	4	5
小麦	販売予定数量①	948	909	905	880	820	846	834	824	809	864	887	955
	購入希望数量②	904	869	751	802	834	875	880	863	880	813	796	843
	①-②	44	40	154	78	▲ 14	▲ 29	▲ 46	▲ 39	▲ 72	51	91	111
	(①-②) /① (%)	4.7	4.4	17.0	8.9	▲ 1.8	▲ 3.4	▲ 5.5	▲ 4.7	▲ 8.9	5.9	10.3	11.7
大麦・はだか麦	販売予定数量①	122	116	110	112	113	112	108	108	120	129	129	135
	購入希望数量②	147	138	141	149	145	138	148	130	123	93	142	175
	①-②	▲ 26	▲ 21	▲ 31	▲ 37	▲ 32	▲ 26	▲ 39	▲ 22	▲ 3	35	▲ 14	▲ 40
	(①-②) /① (%)	▲ 20.9	▲ 18.2	▲ 28.2	▲ 33.0	▲ 28.4	▲ 23.4	▲ 36.3	▲ 20.4	▲ 2.2	27.5	▲ 10.5	▲ 29.6

資料：民間流通連絡協議会調べ。

注：四捨五入の関係で差し引きが一致しないことがある。

5 国内産食糧用麦の価格の動向

(1) 令和5年産の入札の概要

令和5年産麦の入札は、第1回は令和4年9月14日に、第2回は令和4年9月28日に実施されました。

麦種別の入札結果をみると、小麦は、上場数量約24万7千トンのうち約21万7千トンが落札（落札率88.1%）され、落札価格は69,808円/トン（対前年産比129.8%）となりました。

小粒大麦は、上場数量約1万4千トンのうち、ほぼ全量が落札（落札率99.7%）され、落札価格は45,741円/トン（対前年産比99.7%）となりました。

大粒大麦は、上場数量約1万1千トンのうち、ほぼ全量が落札（落札率95.6%）され、落札価格は44,453円/トン（対前年産比108.7%）となりました。

はだか麦は、上場数量約2千トンのうち、約1千トンが落札（落札率67.6%）され、落札価格は35,313円/トン（対前年産比92.0%）となりました（表III-10）。

表III-10 国内産食糧用麦の入札結果の推移

年産		平成24	25	26	27	28	29	30	令和元	2	3	4	5
小麦	上場数量 (トン)①	250,980	244,880	244,320	234,010	213,360	221,380	218,500	214,200	207,010	221,790	227,160	246,850
	落札数量 (トン)②	245,320	220,590	188,240	192,240	201,140	214,060	210,560	204,420	200,480	166,970	168,150	217,360
	落札率 ②/①	97.7%	90.1%	77.0%	82.2%	94.3%	96.7%	96.4%	95.4%	96.8%	75.3%	74.0%	88.1%
	落札価格 (円/トン)	58,340	49,333	49,319	49,770	54,164	51,570	53,624	61,714	65,073	56,717	53,795	69,808
	対前年産比	119.7%	84.6%	100.0%	100.9%	108.8%	95.2%	104.0%	115.1%	105.4%	87.2%	94.8%	129.8%
小粒大麦 (六条大麦)	上場数量 (トン)①	11,760	11,220	11,290	11,930	12,210	12,200	11,750	11,040	11,130	11,550	13,310	13,810
	落札数量 (トン)②	11,550	10,850	10,900	11,830	12,090	12,200	11,440	10,940	11,040	10,930	12,440	13,770
	落札率 ②/①	98.2%	96.7%	96.5%	99.2%	99.0%	100.0%	97.4%	99.1%	99.2%	94.6%	93.5%	99.7%
	落札価格 (円/トン)	46,485	46,453	46,290	47,595	47,565	46,880	46,708	46,560	46,670	46,480	45,860	45,741
	対前年産比	101.3%	99.9%	99.6%	102.8%	99.9%	98.6%	99.6%	99.7%	100.2%	99.6%	98.7%	99.7%
大粒大麦 (二条大麦)	上場数量 (トン)①	9,000	8,700	7,210	7,620	7,450	7,620	6,880	7,810	10,070	10,450	10,510	11,080
	落札数量 (トン)②	7,990	7,830	6,480	7,130	6,600	6,700	6,340	5,600	3,930	1,530	9,720	10,590
	落札率 ②/①	88.8%	90.0%	89.9%	93.6%	88.6%	87.9%	92.2%	71.7%	39.0%	14.6%	92.5%	95.6%
	落札価格 (円/トン)	40,394	41,582	42,881	45,740	47,827	50,442	53,384	46,923	40,647	33,431	40,878	44,453
	対前年産比	101.9%	102.9%	103.1%	106.7%	104.6%	105.5%	105.8%	87.9%	86.6%	82.2%	122.3%	108.7%
はだか麦	上場数量 (トン)①	3,060	2,830	2,840	2,890	2,740	2,660	2,570	2,330	2,140	2,930	2,230	1,850
	落札数量 (トン)②	3,020	2,830	2,810	2,810	2,520	2,600	2,470	2,090	1,980	1,100	1,010	1,250
	落札率 ②/①	98.7%	100.0%	98.9%	97.2%	92.0%	97.7%	96.1%	89.7%	92.5%	37.5%	45.3%	67.6%
	落札価格 (円/トン)	51,905	52,294	49,656	47,712	46,547	48,527	52,876	50,817	46,532	45,169	38,397	35,313
	対前年産比	98.3%	100.7%	95.0%	96.1%	97.6%	104.3%	109.0%	96.1%	91.6%	97.1%	85.0%	92.0%

資料：一般社団法人全国米麦改良協会調べ。

注：1. 価格は、税込み（平成26年産までは5%、平成27年産以降は8%）である。

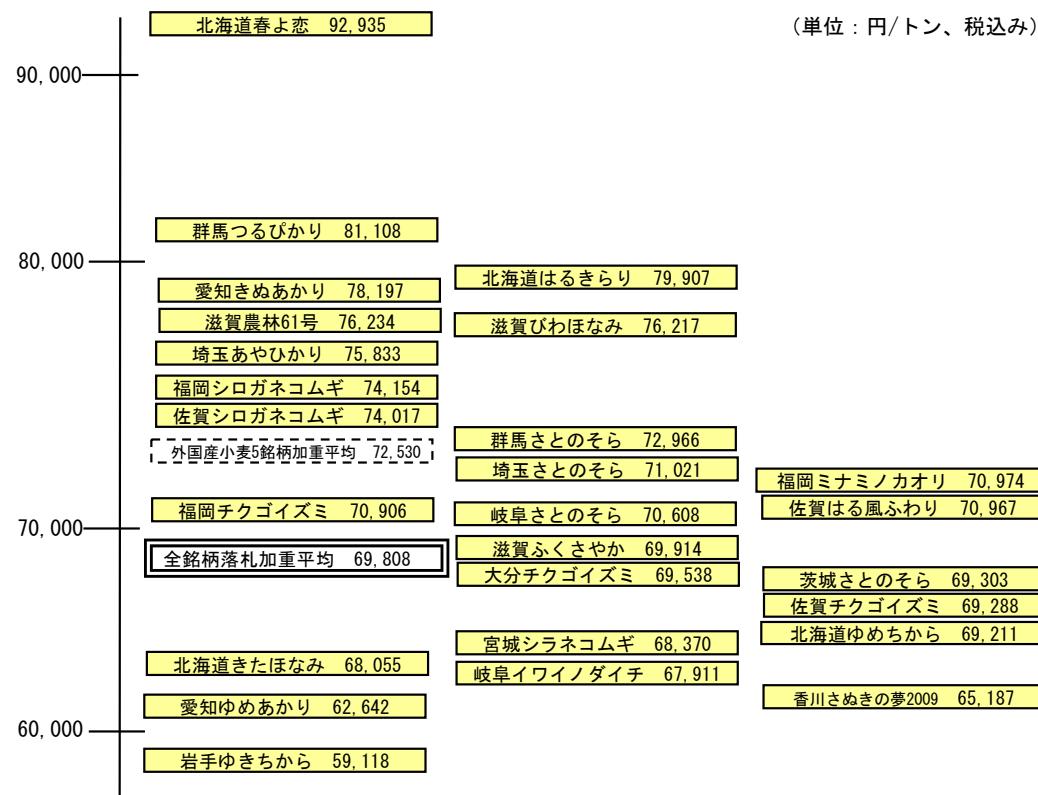
ただし、令和元年産以降の落札価格は、一般社団法人全国米麦改良協会公表の価格（税抜き）を基に農林水産省で税込み価格を算出。

(2) 令和5年産国内産食糧用小麦の産地別銘柄別落札価格の動向

令和5年産国内産食糧用小麦の入札結果をみると、産地別銘柄別の需給状況等を反映して落札価格に差が生じています。

代表的な銘柄である北海道産「きたほなみ」は68,055円/トン（基準価格対比90.7%、前年産対比126.7%）、香川県産「さぬきの夢2009」は65,187円/トン（基準価格対比90.0%、前年産対比125.7%）となりました。また、パン・中華麺用の北海道産「ゆめちから」は69,211円/トン（基準価格対比90.0%、前年産対比125.7%）、北海道産「春よ恋」は92,935円/トン（基準価格対比90.0%、前年産対比125.7%）となりました（図III-5、図III-6）。

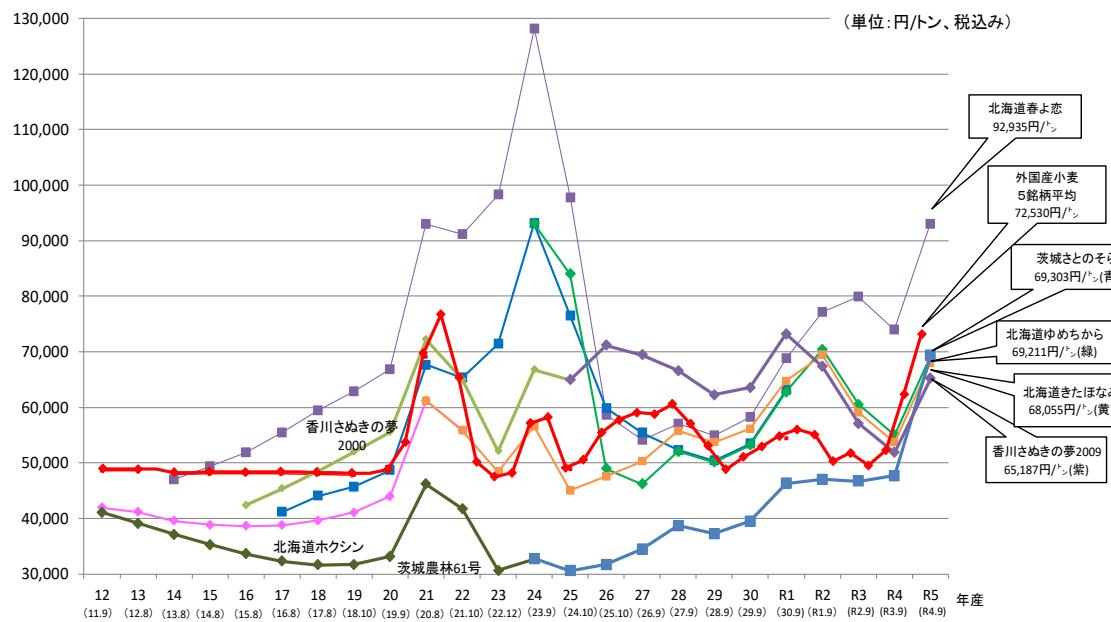
図III-5 令和5年産国内産食糧用小麦の産地別銘柄別落札価格



資料：農林水産省調べ

注：外国産小麦5銘柄加重平均価格は、令和4年4月期の輸入小麦の政府売渡価格である。

図III-6 国内産食糧用小麦の産地別銘柄別落札価格の推移



資料：農林水産省調べ

注1：国内産小麦の価格は、（一社）全国米麦改良協会が実施する民間流通麦にかかる入札の第1回、第2回及び再入札の落札加重平均価格（税込み）。年産の下段の（ ）内は当該第1回入札の実施年月である。

注2：外国産小麦の価格は、18年までは当該年度平均の実績価格であり、19年以降は、民間流通麦にかかる第1回入札の実施年月時点での輸入小麦の政府売渡価格（5銘柄平均）である。

注3：ホクシン（きたほなみ）については、22年産までは「ホクシン」の価格であり、23年産からは「きたほなみ」の価格である。

注4：さぬきの夢については、24年産までは「さぬきの夢2000」の価格であり、25年産からは「さぬきの夢2009」の価格である。

注5：農林61号（さとのそら）については、23年産までは「農林61号」の価格であり、24年産からは「さとのそら」の価格である。

6 国内産麦の新品種の育成状況

(1) 国内産麦については、縞萎縮病抵抗性や耐倒伏性を備え、需要者等のニーズに合った新品種の開発が進められています。また、作付け面積が1万haを超える「ゆめちから」「さとのそら」をはじめ、多数の品種が生産現場に導入されています(図III-7)。

小麦品種「ゆめちから」及び「さとのそら」は、優れた栽培特性と加工適性を備えており、作付けが拡大しています(令和3年確定値:「ゆめちから」約2万ha、「さとのそら」約1万5千ha)。

(2) 今後とも、赤かび病抵抗性や穂発芽耐性が高い小麦品種、小麦粉の色相や製粉性が優れる日本麵用小麦品種、パンの膨らみがカナダ産「1CW」並の小麦品種、食用・焼酎・味噌などの加工適性が高い大麦品種等の開発を推進します。

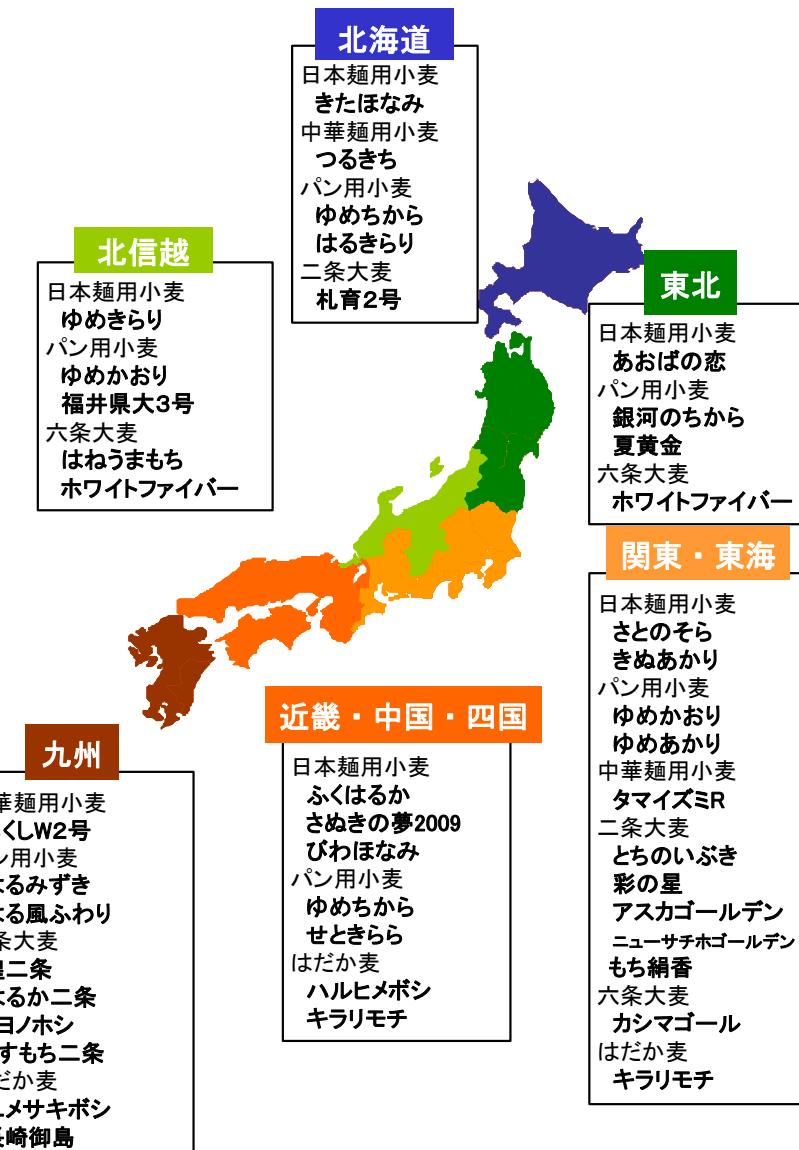
※ パン用小麦品種の開発

近年、国産の小麦粉を使ったパンの需要増加に応えるため、グルテンやでん粉の組成などパンの膨らみに関連する特性に注目した育種が進められています。その結果、平成24年に製パン適性が「1CW」に近く多収の「せときらら」、平成29年にパン生地の力が強く、穂発芽耐性や赤かび抵抗性が改良された「夏黄金」、平成30年にはタンパク質含量が高く、パン生地の力が強い「はるみずき」、穂発芽耐性が優れ、製パン性が輸入小麦並みに優れる「はる風ふわり」が育成されました。

※ 用途に応じた大麦品種の開発

機能性成分β-グルカンを多く含むもち性大麦の需要の高まりに応えるため、平成28年に「はねうまもち」、「ホワイトファイバー」、平成29年に「くすもち二条」が育成されました。また、高品質なはだか麦の需要増加に対応して、平成24年に味噌加工適性の高い「ハルヒメボシ」が育成されました。

図III-7 平成18年以降に育成された麦類の主な新品種※



※新品種のうち、令和4年産で概ね100ha以上作付けされていると推定される品種を選定(農林水産省調べ)。

7 国内産麦を利用した製品の動向

食料自給率の向上を図るために、国内産麦の需要開拓を行うことが必要です。最近の消費者の国産志向の高まりや生産者と実需者が一体となった地産地消の推進、地域農業の振興を図る取り組み等から、国内産麦を使った麦製品（パン・麺等）が増えてきており、中には国内産麦を100%使用した商品もあります（図III-8）。

図III-8 国内産麦を100%使用した商品事例

- **ピッツア専用粉（北海道）（小麦）**
地元の製粉企業が、北海道産小麦（きたほなみ、キタノカオリ、ゆめちから）を100%使用した国内で初めてのピッツア専用粉を開発。平成30年2月に都内で試食会を開催し、平成30年5月から販売。
- **学校給食用パン（宮城県）（小麦）**
宮城県学校給食会、宮城県パン・米飯協同組合等が連携し、令和4年4月から、国内産小麦100%（うち宮城県産小麦（夏黄金、シラネコムギ）50%）を使用した学校給食用パンを県内のほぼ全ての小・中学校に提供開始。
- **ピッツア専用粉（群馬県）（小麦）**
地元の製粉企業が、地元のピッツア専門店、ピッツア窯メーカーと協力して品質改良を重ね、群馬県産小麦（さとのそら、つるぴかり、きぬの波）を100%使用したピッツア専用粉を平成30年4月から発売。ピッツアイベントやイタリアン食材の展示会に出展。
- **学校給食用パン、中華麺（長野県）（小麦）**
地元の製粉企業、県製粉協会、県学校給食会が協力し、国内産小麦100%（うち長野県産小麦50%）を使用した学校給食用パン、中華麺を開発し、令和3年1月から県内の全小中学校に通年で導入開始。
- **家庭用ミックス粉（愛知県）（小麦）**
地元の製粉業者がJAの協力を得て、愛知県産小麦きぬあかりを100%使用した家庭用ミックス粉を開発。令和4年11月から地元スーパー・マーケット等で販売開始。
- **お好み焼き（京都府）（小麦）**
地元の製造業者が、滋賀県産小麦びわほなみを100%使用した小麦粉でお好み焼きを製造。令和4年10月から販売開始。

○ **パンケーキミックス（香川県）（小麦、大麦）**

地元製粉企業、県産業支援財団、県産業技術センターが連携し、香川県産麦（イチバンボシ、さぬきの夢）を100%使用した機能性表示食品の「大麦パンケーキミックス」を開発。令和元年4月から販売開始。

○ **フランスパン用粉（佐賀県）（小麦）**

近県の製粉企業が、農研機構と共同で育成した九州地域等の暖地・温暖地向けのフランスパン加工適性に優れる準強力小麦品種さちかおりを100%使用したフランスパン用粉を平成30年8月から発売。

○ **市販用ゆで麺（長崎県）（小麦）**

地元の製麺企業、近県製粉企業、県生麺協同組合、JA、県等が連携し、平成26年3月に「長崎県育成麦活用開発協議会」を立ち上げ、長崎県産長崎W2号（商標登録名：長崎ちゃん麦）を100%使用したちゃんぽん用のゆで麺を、平成29年4月に製品化し販売開始。

○ **機能性表示食品の麦ごはん（愛知県）（大麦）**

地元の精麦企業が、愛知県産無洗米コシヒカリに、大麦由来 β -グルカンを従来品種の2倍以上含有する愛知県産はだか麦ビューファイバーを20%ブレンドした麦ごはんを開発。機能性表示食品として令和2年7月に届出し、令和3年2月から販売開始。

○ **もち性大麦を使用したシリアル（熊本県）（大麦）**

地元の精麦企業が、九州産大麦くすもち二条を100%使用したシリアルを開発し、九州地域バイオクラスター推進協議会にて「九州健康おやつ」に認定。令和2年3月から全国販売を開始。

○ **栄養補助食品（長崎県）（大麦）**

地元の精麦企業と県工業技術センターが共同研究し、国内産大麦（長崎県産はるか二条、佐賀県産サチホゴールデン、大分県産麦トヨノカゼ）の糠から抽出した栄養補助食品を開発。令和2年1月から全国販売を開始。

○ **本格麦焼酎（大分県）（大麦）**

地元の酒造企業が、県と県酒造協同組合が共同で品種開発した、焼酎づくりに適した大分県産二条大麦トヨノホシを100%使用した本格麦焼酎を製品化。平成29年3月から販売開始。

○ **麦みそ（大分県）（大麦）**

地元の味噌メーカーが、大分県産はだか麦トヨノカゼの生産地域を宇佐産にこだわり、これを100%使用した麦味噌を開発。令和2年9月から販売開始。

8 国内産麦の需要拡大イベント及び情報発信の取組

近年、生産者と実需者等が連携し、国内産麦を使用した製品が数多く開発・販売されており、各地でイベント等の需要拡大の取組みが行われております。

また、農林水産省としては、令和4年度、産地と実需のマッチング、食品関連企業等が行う国内産麦を活用した新商品の開発、試作、製造するために必要な取組を支援する「麦・大豆利用拡大推進事業」を一般社団法人全国米麦改良協会を実施主体として行っているところです。

農林水産省ホームページにおいて、国内産麦の需要拡大の取組みについて情報発信を行うとともに、一般社団法人全国米麦改良協会においても需要拡大の取組等が行われています（図III-9）。

図III-9 麦・大豆利用拡大推進事業

○「麦・大豆利用拡大推進事業 全国統一試食会・商談会」

・開催日：
令和5年2月15日～17日

・場所：
幕張メッセイベントホール
(千葉県千葉市)

・内容：
令和3年度補正予算事業「麦・大豆利用拡大推進事業」の一環として行われた国内産麦・大豆を使用した試作品の試食会・商談会



○「麦・大豆利用拡大推進事業全国統一試食会・商談会」で出品された試作品

出展社紹介

出展名 「さぬきの夢」利用促進協議会(石丸製麺株式会社)

創業以来百余年の長きに亘り、郷土が誇る讃岐うどんを造り続けてまいりました。ここ数年は「さぬきの夢」を始めとした、様々な国産原料を使用した製品開発に取り組んでおります。今後も製麺技術を磨き、さらなる出会いを求めて努力してまいります。

会社名 / 石丸製麺株式会社
住所 / 〒761-1401 香川県高松市香南町岡701
電話 / 087-879-6111
HP / <https://isimaru.co.jp/>
e-mail / yonezaki@isimaru.co.jp

事業内容 / 乾麺(うどん、ひやうどん、のめうどん、中華めん、そば、きしめん)、手打ち式乾麺、生半蔵の製造・販売

試食品名

「さぬきの夢」100%使用うどん及び
香川県産小麦を使用した乾麺うどん

商品紹介

「さぬきの夢」小麦ならではのモチモチとした食感と独特の粘りが特長です。熟成と延しを繰り返す手打式乾麺で打ち上げ、包丁切りで切り出しました。麺をよくくすぐる国産小麦の風味とコシの強さ、包丁切りならではののめめさをご堪能いただけます。



出展名 西尾製粉株式会社

創業1900年以來小麦粉の製造を主に営んできました。近年では大豆粉 ミックス粉の製造販売ハラル認証の取得等新しい分野にも挑戦しています。主力である小麦粉は愛知県産北海道産をメインに取り扱いをしております。

会社名 / 西尾製粉株式会社
住所 / 〒445-0803 愛知県西尾市桜町中田新31番地2
電話 / 0563-56-5181
HP / <http://www.nishio-seifun.co.jp/>
e-mail / info@nishio-seifun.co.jp

事業内容 / 小麦粉、大豆粉、ミックス粉の製造販売、乾麺、半生麺の販売

試食品名

国産小麦粉 大豆粉 及び国産小麦粉

大豆粉を使用した洋菓子

商品紹介

国産小麦粉は愛知県産「さぬきあかり」岐阜県産「イワノダイチ」北海道産「きたほなみ」「ゆめからくらはるよし」「スペルト小麦」。国産大豆粉は「生大豆粉」「酵素失活大豆粉」を取り扱っています。協力会員にユニークスにお願いして国産小麦粉、国産大豆粉を使用した洋菓子を持参しました。



出展名 濱田精麦株式会社

精麦業を創業し、神奈川県伊勢原市で創業110周年を迎めました。精麦業から、現在は製粉機関の加工・販売・お客様の要望にお応えしながら取り組んでおります。これからは「伝統と継承」をテーマに厳しい時代の荒波にも耐え、お客様により良い品質・品質・安心をご提供し、また地域にも更に貢献できる企業を目指してまいります。

会社名 / 濱田精麦 株式会社
住所 / 〒259-1146 神奈川県伊勢原市鈴川19
電話 / 0463-92-2221
HP / <http://www.hamadaseibaku.co.jp>
e-mail / info@hamadaseibaku.co.jp

事業内容 / 精麦業・米加工・酒類加工・米穀販売・倉庫保管業

試食品名

もち麦ごはん極

「もち麦ごはん 極」は、ほよいに黏りと豊かな口みが特徴のお米「宮城県産ひめぼれ」を70%使用しております。ご「ひめぼれ」に岡山県美作市産の「フクリミツバーミ」を30%ブレンドした商品です。健康食材として注目を浴びている「もち麦」のなかで、既存のもち麦(キラリモチ・ハクウマモチ)に比べて食物繊維量が約2倍も含まれています!



出展名 Blue M 株式会社

春・夏・秋・冬に流水を加え、五季があるといわれるオホーツク。地域の方々と一緒に私たちが目指すのは、一過性のものづくりではなく、地域の未来のためになるものづくりです。2007年の創業以来、この地で様々な角度から食に携わってきた弊社のリソースを用いて、オホーツクが誇る素材を活用した商品開発・商品化を行っています。

会社名 / Blue M 株式会社
住所 / 〒099-3111 北海道網走市字藻琴14-1
電話 / 0152-45-0233
HP / <https://bluem-ohhotsk.com>
e-mail / info@bluem-ohhotsk.com

事業内容 / オホーツクの素材でこだわった商品製造・小売販売・卸・飲食店の運営

試食品名

そのままもち麦・ユキマドカソイミルク(3種)

商品紹介

オホーツク産のもち麦をそのまま食べられる「ライパック」にしました。ブチブチとした食感でご飯に混ぜるのはもちろん、サラダやスープのトッピングにも多いアクセントになります。甘味と旨味の強いオホーツク産のユキマドカで3種のフレーバー豆乳をご用意しました。にんじん、あかね&ビーツ(りんご)、カフェオレの3種を用意しました。



出展名 ヤマサン食品工業株式会社

山菜や野菜、豆など本来の風味と触感が楽しめる様に加工し、全国のお客様にお届けしている山菜水煮の総合メーカーです。創業90年以上の歴史を持ち、「丁寧な味」を創り、叶える。』を企業理念とし、歩んでまいりました。

会社名 / ヤマサン食品工業株式会社
住所 / 〒939-0311 富山県射水市黒川3197
電話 / 0766-56-4866
HP / <https://www.yamasonfood.co.jp/index.html>

事業内容 / 山菜水煮の製造販売企業

試食品名

豆のめぐみ ゆで大豆

富山県産大豆を使用した栄養機能食品の「ゆで大豆」です。素材由来の栄養成分で不足しがちな鉄分を補給できます。下処理済みですので、そのままお召し上がりいただけます。



出展名 濑戸内麦推進協議会

瀬戸内海沿いのエリアは日本を代表する大麦の一種・はだか麦の一大産地です。この「はだか麦」は昔から「はだか麦」といって、麦茶そして麦みその原料として生活の一部となっています。この「はだか麦」は豊富な食物繊維を含み、コレステロール抑制効果、そして低GI食品として知られています。この「はだか麦」をより多くの方に知ってもらお、生活の一品として取り入れてほしい。こんな想いを持つ企業、団体が集結して設立されました。

会社名 / 濑戸内麦推進協議会
住所 / 〒751-0804 山口県下関市楠木丁目3番1号
(株式会社ワコク・ワックス山口営業所内)

HP / <https://setouchi-mugi.jp>
e-mail / info@setouchi-mugi.jp

事業内容 / はだか麦の普及・需要拡大

試食品名

はだか麦加工品

(蒸しパン・ケーキ、麦茶、大麦ジュレ)

商品紹介

はだか麦蒸しパン・ケーキ、はだか麦加工品、麦茶、大麦ジュレなど、瀬戸内産の安心、安全な新商品はだか麦の美味しさを提供いたします。



9 食料・農業・農村基本計画における麦の位置付け

令和2年3月31日に令和12年度を目標とする「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定され、小麦は108万トン、大麦・はだか麦は23万トンの生産努力目標が設定されています（表III-11）。

表III-11 麦の令和12年度における食料消費の見通し及び生産努力目標

	食料消費の見通し				生産努力目標 (万トン)		克服すべき課題	
	1人・1年当たり消費量 (kg/人・年)		国内消費仕向量 (万トン)					
	平成30年度	令和12年度	平成30年度	令和12年度	平成30年度	令和12年度		
小麦	32	31	651	579	76	108	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国内産小麦の需要拡大に向けた品質向上と安定供給 ○ 耐病性・加工適性等に優れた新品種の開発導入の推進 ○ 団地化・ブロックローテーションの推進排水対策の更なる強化やスマート農業の活用による生産性の向上 ○ ほ場条件に合わせて単収向上に取り組むことが可能な環境の整備 	
大麦・はだか麦	0.3	0.3	198	196	17	23	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国内産大麦・はだか麦の需要拡大に向けた品質向上と安定供給 ○ 耐病性・加工適性等に優れた新品種の開発導入の推進 ○ 団地化・ブロックローテーションの推進排水対策の更なる強化やスマート農業の活用による生産性の向上 ○ ほ場条件に合わせて単収向上に取り組むことが可能な環境の整備 	

資料：「食料・農業・農村基本計画」（令和2年3月閣議決定）

注：1) 国内消費仕向量には、飼料用等の食糧用以外の用途への仕向量を含む。

2) 大麦・はだか麦の国内消費仕向量及び生産努力目標には、ビール大麦を含む。